

# 令和5年度足柄高等学校第3回学校運営協議会 会議概要

令和6年3月15日（金）  
足柄高等学校 会議室

## 令和5年度の足柄高校（校長）

○令和5年度学籍状況について

○教科外活動の実績について

○卒業式

卒業生は227名であった。

○部活動

生徒の参加率等を鑑みると低迷傾向だが、今年度も実績を残した。

○令和5年度 かながわ子どもサポートドッグ事業について

アンケート実施後、要面談と判定された生徒に対して面談を行う「プッシュ型面談」を行った。様々な生徒の声をとおむね拾えたのではないかと考えている。来年度は年度初めにも行っている予定である。

○令和6年度入学者選抜について

最終的に234名の合格で定員割れとなった。近隣の方の力もお借りしつつ、特に学区内の学校に本校の良さを知ってもらう必要があると考えている。

○令和5年度の学校経営における課題と成果について

カリキュラムの見直しに関して、来年度からは総合的な探究の時間を拡充する。ICTを活用しながら、より積極的に探究活動を進めていきたい。

○生徒がPCを使用する授業研究の推進について

生徒はどうしてもスマートフォンの方が使いやすい様子である。一部の教科では、教材等を紙ベースから全てデジタルに移行するなど、少しずつ取り組みを進めている。

○令和6年度 足柄高等学校 学校運営協議会体制について

学校運営協議会の機能を強化するために、「第三者評価」の機能と併せる形に改正される。従って、来年度は第三者評価は実施されない。今後は学校評価部会を行った後、学校運営協議会（全体会）を実施するという流れになると思われる。また、第三者の視点による評価を行う「有識者」二名については、内田委員と林委員に依頼したいと考えている。

## 協議 令和5年度 学校評価報告

・教務グループ（水上総括教諭）

11月に、年次研修の研究授業に合わせて授業見学週間を実施した。主に若い世代の教員を中心に、授業づくりの新たな視点を得る良い機会になったと考えている。

学校全体でペアワークやグループワークを行う授業が増加した。生徒の主体的・対話的で深い学びのためにも良い傾向であると考えている。来年度からは全学年が新カリキュラムに移行するため、引き続き組織的に授業改善を行っていきたい。

スタディサプリの効果の検証については、学習時間以外の評価方法を今後も検討していく。具体的な方法は検討する必要があるが、生徒の意欲や主体性で評価を行いたいと考えている。

・進路グループ（桐生教諭）

全職員で総合型選抜等の生徒に対する小論文指導・面接指導等を行うことができたが、大学進学に関しては一般受検の生徒が少し減少する結果となった。

特別募集生徒の進路に関しては、今年度も保護者の希望に添った様々な就職先へ進むことができた。

来年度の改善策としては、1年生のうちから進路説明会等を行っていくことで、早い段階から生徒のキャリア形成を支援していきたいと考えている。

特別募集生徒については、2年生から積極的に実習を経験させることで、より確実に自身の適性を確認できるように支援していく。

・生徒支援グループ（長屋総括教諭）

今年度の特別指導の主な内容は、制服でのバイク乗車や不正行為、SNSトラブル等であった。携帯電話講座を前倒しで行う等、生徒の規範意識を早い段階で養うことでトラブルを未然防止する取り組みを行っていききたい。

かながわ子どもサポートドッグ事業については、アンケートの実施やプッシュ面談を含めて3、4ヶ月という相当の期間を要することが分かった。

教育相談コーディネーターの負担も大きくなってしまったため、来年度はサポート担任とも連携して負担を分散させたいと考える。ただ、生徒が普段担任に相談できないことをアンケートによって拾い、別の相談できる場を用意できた点は良かったと考えている。

・生徒会グループ（高橋総括教諭）

足高祭に関しては、地域の方や生徒の関係者等、一般の来場者が2,000人を越えた。

来年度の行事としては、陸上競技大会を廃止する代わりに体育祭を行う。内容としては、生徒の希望も取り入れてレクリエーション要素を取り入れた種目を実施することを考えている。

部活動加入率は、現在60%を切るまでに低下してしまっており、現在の世情が反映されているものと考えている。今後は部活動だけでなく、それに代わる学校の魅力を発信していく必要がある。

・情報管理グループ（栗田教諭）

タブレット端末の保管・管理方法の見直しを行った。利用マニュアルを整備し、全ての担任が同じように端末を取り扱えるようにした。まだ生徒が端末を管理する習慣が不十分であるため、貸し出し方法を改善していきたい。

Wi-Fiがつながりにくいという課題もあるが、こちらはセキュリティシステムの不具合という原因がはっきりしているため、今後対応していく。

今年度は様々な行事において、生徒を前面に出した形で行うことができたが、行事が多いことで職員の負担が大きくなったり、行事の内容が被ってしまったりすることがあった。そのため、いくつかの行事を削減し、学校説明会等をより充実させたい。

広報活動については、ウェブページを使った広報活動を積極的に行ってきた。今後は、さらにSNSと連動させた広報活動を行っていききたい。学校公式Youtubeについても、より効果的に活用できるようにしていく。

・管理運営グループ（奥村総括教諭）

避難所開設訓練について、基本的に学校が主体となってい、場合によって市と地域の方が集まる場所としたい。

学校について地域に知ってもらう方法として、PTA広報誌を地域にも配布することも考えており、防災に限らず、引き続き地域と連携していきたい。

質疑・意見（○：委員 ●：学校）

- 避難所開設訓練について、地元の学生が多いとはいえ遠方から通っている生徒もいる。災害時、学校に宿泊する準備や訓練も行った方が良いのではないか。
- 体育祭や新カリキュラム等の新しい取組みを学校全体でエネルギーをもって取り組もうとしている様子が見受けられる。業務の適切な削減とともに取り組んでほしい。

- スタディサプリについて、学習時間を一つの指標とするのはもちろん良いが、学習の「質」を測定する方法について、具体的な手立てはあるか。
- 時間を指標とする方針はそのままに、「質」について組織的に取り組みながら模索していきたい。
- 来年度、英語については学年単位で課題を出し、それを全職員でチェックする際、テストの初回正答率を時間と共に確認することを現在考えている。
- 生徒の苦手や抜け漏れを把握できる到達度テストも行い、個別最適型学習についても職員全体で取り組んでいきたい。
- 配慮の必要な生徒が本校でも増えている中で、サポート担任は良い取り組みであると感じた。今年度のサポートドックについて、相談の傾向等があれば教えてほしい。
- アンケートを行った結果、「要相談」と判断された生徒に対して面談を行った。初回はかなりの数の生徒に対して面談を行ったが、2回目は各クラス2, 3人程度となった。
- 相談内容については、家庭・学習・友人関係など多岐にわたった。中でも家庭に関する相談は、少し長引く傾向があったように思われる。
- 新しい取り組みを多く行っている印象を受けた。学校と地域の連携は引き続き進めてほしい。
- 中学校では、地元の企業と連携して環境教育等を行っている。高校においても、地元企業や自治体等との連携を行ってほしい。
- 先日の市議会において、自治体と本校生徒のコラボ企画が決定した。6月に南足柄市の観光課の方に来ていただき、地域の資源等についての講演会を実施することになった。
- 生徒が自分たちの地元のことを知り、課題を見つける力を育むためにも良い企画だと考える。商工会としても、ぜひそういった取り組みを行ってほしい。
- 部活動加入率の低下について、生徒それぞれの時間が少なくなっていることが要因ではないか。定員割れについては、現在の生徒の充実感が低下してしまっていることが関係しているのでは、と考えた。
- 定員割れについては、募集の段階で地域柄少し不利になってしまうことも関わっていると思われる。
- 部活動について、以前は高校と中学の部活の連携もあったが、現在は働き方改革によって減少している。部活動を理由に足柄高校を選ぶ生徒は徐々に減少し、進学率で高校を選ぶ中学生が多くなってきた。足柄台中学校の生徒には、近所ということもあって足柄高校の良さが直に伝わっていると考えているが、それが全県には伝わっていない。多くの中学生に「生」の足柄高校生の姿を見てもらう必要があるのではないか。
- そのためには、足柄高校の生徒が、学校についてどう思っているかを把握する必要もある。アンケート等を通じてそれを把握し、生徒の充実感の向上につなげられると良い。
- 今年は昨年までと違う場所で納涼祭を行い、多くの子どもたちに来てもらうことができた。足柄高校の軽音部に出演してもらったことで、子どもたち同士のつながりもできたように思う。
- 6月に美化デーを行ったが、学校単独で行うことが多いため、今後は足柄高校の生徒と自治会が協力して行えると良い。
- 地域への広報誌の配布については、地域への情報発信専用のアプリを用いてデータ配信することができる。これについても連携しながら進めていきたい。

#### 協議 新たなスクール・ポリシー（案）について

(校長) 今月から、スクールミッション以外の箇所の見直しを進める。学校教育目標に掲げる3点をベースとして、それに向けた具体的な手立てを考えていく。グラデュエーション・ポリシーについてはさらなる共生社会に向けたものとし、カリキュラム・ポリシーについては学校教育目標と連動する形で見直しを

進める。

質疑・意見（○：委員 ●：校長）

- グラデュエーション・ポリシーの一つ目について、「すべての～」の前に「他者を思いやる心を持ち、」という文言を入れた方が良いのではないか。スクールミッションの文言と統一した方が良い。
- アドミッション・ポリシーの「求めています」という文言を、例えば「育てます」等に変えた方が良いと感じた。そもそも初めから完成された生徒はいないため、「求めています」という文言は生徒にとってハードルが高いように感じる。
- これについては、再度生徒にとってハードルが高く感じられないような文言を検討する。
- 現在の文言の場合、条件が学校側から突きつけられている印象があるため、他の学校全体でも変えていくべきかもしれない。
- アドミッション・ポリシーについては大学にもあるが、面接で受検者に問うなど、しっかりと体制が整っていれば良いと考える。また、大学で定めているようなアセスメント・ポリシーを高校でも検討すると良いと考える。
- そもそも公立高校は、各学校の特色を出したくても入試形式が決められていて難しい面もあるのではないか。
- アドミッション・ポリシーについては、「～したい生徒」「～意欲のある生徒」等の文言でも良いように思われる。
- この場で出た様々な意見を踏まえ、よりよい見直しができるよう進めていく。

閉会